

青森市 移住・定住 ガイドブック



青森市

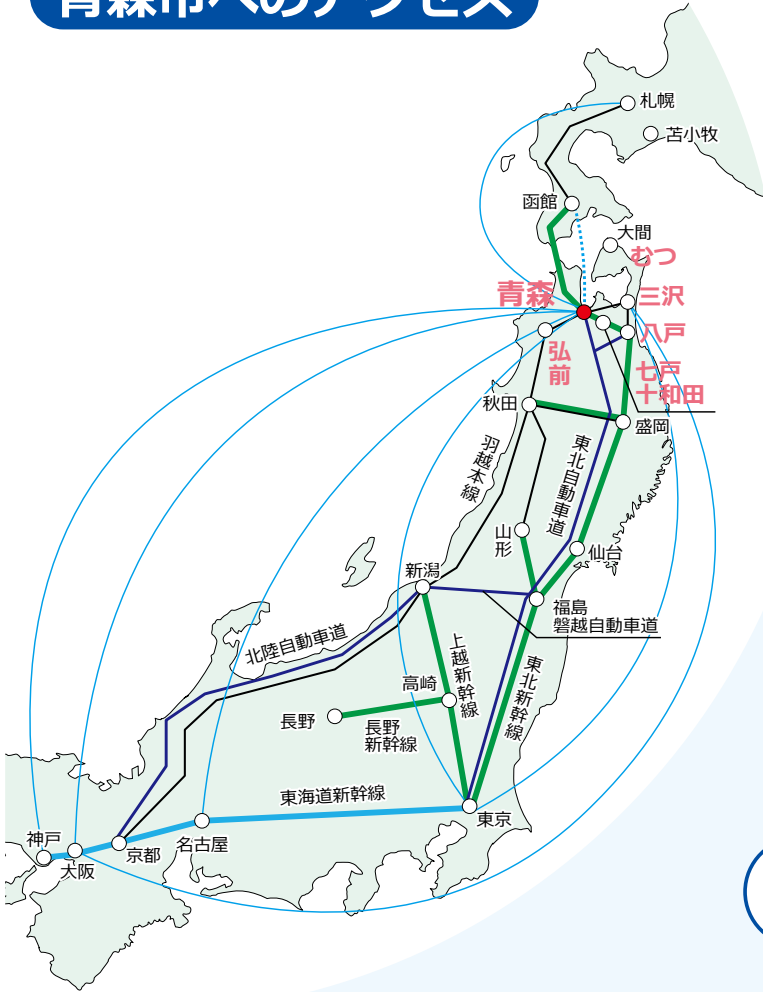
Contents

青森市へのアクセス.....	3
青森市ってこんなところ	4
移住者インタビュー.....	6
萱森 由介 さん	
清水 輝之 さん	
藤田 えみ さん	
平井 義隆 さん	
木村 寧男 さん	
橋本 雄大 さん	
移住に関する支援.....	18
仕事に関する支援.....	19
子育てに関する支援.....	20
農業に関する支援.....	22
暮らしのガイド	23

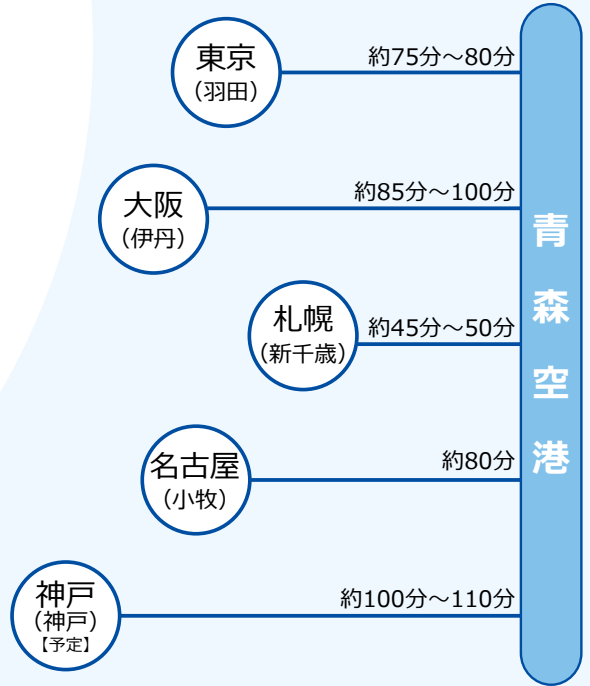


青森市へのアクセス

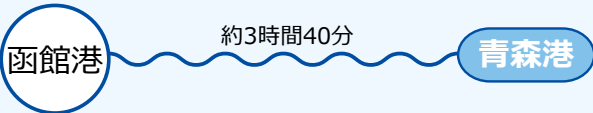
空・海・陸の道で行き交う青森市は、全国からアクセスしやすく、県内移動にも便利な基点です。



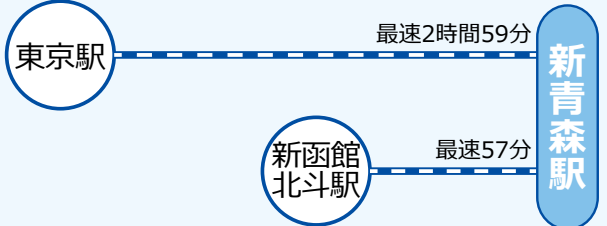
航空機



フェリー



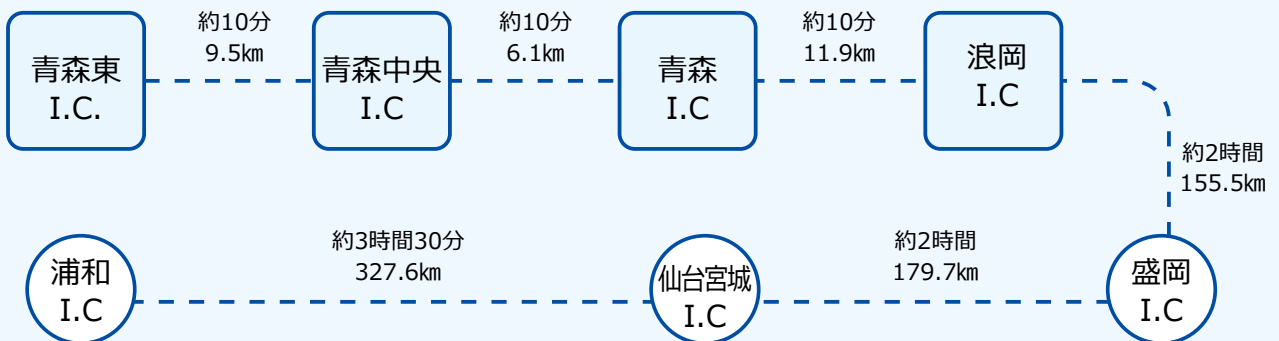
新幹線



車



(所要時間は時速80kmで算定)

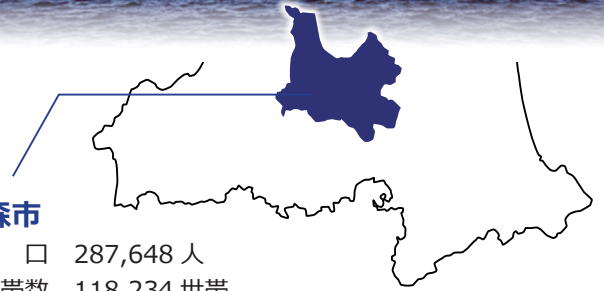


青森市って こんなところ！

青森市は青森県のほぼ中央に位置する青森県の県庁所在地で、江戸時代より本州と北海道を繋ぐ交通と物流の要衝として発展した、北東北における交通・行政・経済・文化の拠点都市です。

八甲田連峰や陸奥湾などの美しい自然に囲まれており、四季折々の景観や、りんご、カシス、ナマコやホタテなど豊富な食材に恵まれています。

また、日本を代表する火祭り「青森ねぶた祭」や世界遺産登録を目指している三内丸山遺跡をはじめとした縄文遺跡群などの文化や歴史など、ここにしかない豊かな宝物を有している大変魅力的なまちです。



青森市

- 人口 287,648人
- 世帯数 118,234世帯
※人口・世帯数は、H27国勢調査結果
- 面積 824.61km²

青森市のあゆみ

旧青森市は、明治43年の青森大火で市内がほとんど焼失、昭和20年7月には焼夷弾攻撃により焦土化しましたが、先人たちのたゆまない努力により見事に復興を遂げました。

旧浪岡町は、南北朝時代の英雄北畠顕家の子孫が居城をかまえた地で、歴史と伝統につちかわれた香り高い独自の文化が息づいています。

この二つのまちが、平成17年4月に合併して、青森市が誕生しました。

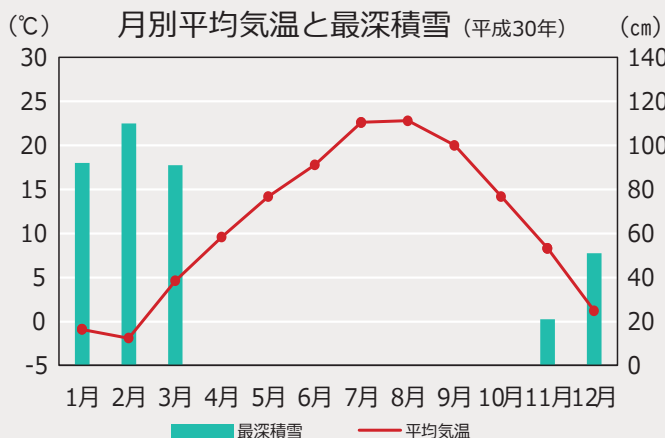
平成18年10月には青森県内初の中核市へ移行しています。

気 候

気候は夏が短く、冬が長く、涼しいため、春から秋にかけて快適に過ごすことができます。

冬はたくさん雪が降るため、人口約30万人都市では、世界で有数の豪雪都市といわれています。

四季がはっきりしていて、季節を肌で感じることができます。



気 温	
平均	11.0℃
最高	34.0℃
最低	-10.7℃
降水量	
年間降水量	1,553.0mm
降雪量	
年間降雪量	659cm
最深積雪※	110cm (2月22日観測)
〔平成30年のデータです。〕	

※「最深積雪」とは、自然に降り積もって地面をおおっている雪の深さの日ごとの最大値をいいます。
積雪は時間とともに重みで沈んだり、解けたりするので積雪の深さと累積の年間降雪量には値に差がでます。

出 典：気象庁

青森市のナンバーワン

生産量日本一

「あおもりカシス」

カシスは本市が日本一の生産量を誇る特産品です。

美しい色と、導入以来品種改良していない、本来のカシスの風味や酸味が高く評価され、首都圏でもあおもりカシスを活用したメニューが登場しています。

また、農林水産省の「地理的表示（GI）保護制度」において「あおもりカシス」が第1号に登録されました。



日本一おいしい水の源「横内川」

横内川を水源とする横内浄水場の水道水は、昭和59年に厚生省（現厚生労働省）の「おいしい水研究会」が行った利き水会で「おいしい」と答えた人が最も多く「日本一おいしい水」と称されました。

暮らしの情報

子育て

中学3年生までの医療費助成（原則、通院・入院とも窓口負担はありません。）を実施しています。

放課後児童会や病児一時保育も充実しており、保護者の就労と子育ての両立を支援しています。

また、市内全ての小・中学校で提供される学校給食は食物アレルギーに対応しています。



医療

青森県立中央病院や青森市民病院をはじめ多くの病院や診療所が各所にあります。市民病院は青森市の中心に存在する県内有数の総合病院で、青森市のみならず周辺地域を含む広い圏域をカバーしています。

買い物

市内中心部には百貨店等の大型店や商店街・市場などが充実しており、郊外には大型スーパーやドラッグストアが分布しているので買い物も便利です。



青森は「始めるには良い場所」
青森ですごい舞台を創りたい



移住者インタビュー

萱森 由介さん（1ターン）

40代 事務職

北海道出身 2003年10月移住

世界から青森市に

移住のきっかけは、青森市内の大学への進学です。高校まで北海道小樽市で暮らしていました。大学では演劇部に所属し、定期公演を行いながらプロデュース公演の企画・運営をするなどしていました。その後大学を中退して、1年ほど日本を縦断したり、東欧に行ったりしながら、舞台を中心とした生活を10年ほど続けていました。そんな中、今働いている学校法人で、演劇部立ち上げのお手伝いをしました。そして、そのまま勤めることになりました。正直、就職するとは考えていませんでした。ただ、舞台以外の仕事もやってみたら面白かったのと、学生たちと関わる仕事に魅力を感じたことが大きかったです。学生時代に先輩が「青森は、始めるには良い場所」と言っていたことが妙に残っていて…。折に触れ「青森から世界へ」みたいなフレーズを周りで聞く機会が多くありました。

そこで私は逆に、世界から青森に来てもらえるようなすごい舞台と、誰でも舞台制作に挑戦できる仕組みを創ってやろう！と移住を決意しました。

そのときは、前しか向いていなかったですし、小樽の家族には「ちょっと行ってきます。」くらいの感じでしたね。こうして振り返ってみると、やはり大学時代に演劇を通じてできた関係がここ青森にあったからというのが、移住の一番大きなきっかけだったと思います。今は、大学の総務課に勤務していて、会計業務などを担っています。



地域のまつりに向け横笛の練習

春夏秋冬が最高です

青森市に住んでみた感想ですが…、最高ですね。なんかいい感じです。もちろん大変なことも多いです。でも、住めば都です。まず雪がすごいです。除雪も運転も生活も大変です。でも、みんな高揚していると感じることも多いです。大変と言いつつしゃべり動き出し、大変としゃべり動き…、厳しい冬も乗り切るエネルギーがみなぎっているのだと思います。アクは少々強めかも？ですが、地域の人たちは熱い方ばかりです。こちらも感化されます。あと、大学の数が若干多いかな？という印象があります。でもその大学には、眠っている才能がまだまだあると思っています。地域ともしっかり連携できたら、予想もできないような面白いことが興せるだろうなと思っています。

家族でよく行く所は、地域のお祭りや国際芸術センター青森です。ふらっと出掛けて虫採りしたり、生姜味噌おでん食べたり、たまにアーティストの作品をみたりして楽しんでいます。



地域の祭りに参加。日頃の横笛の練習成果を発揮

青森でやりたいことが2つ

今後も、舞台を中心しつつ、やりたいことが2つあります。1つは、地域で活用しきれていない、「食」「住」を物々交換して行う、アーティスト・イン・レジデンスの仕組みを作りたいです。もう1つは、今、大学の演劇サークルで動画撮影のためのスタジオを作っています。子育てをしながら舞台をやることはなかなか大変です。動画だと舞台よりは時間と場所の融通が利くのではないかなと思っています。スタジオはブルックリン風の喫茶店になっていて、その空間を活かしてドラマや教育番組などの制作を軌道に乗せたいと考えています。

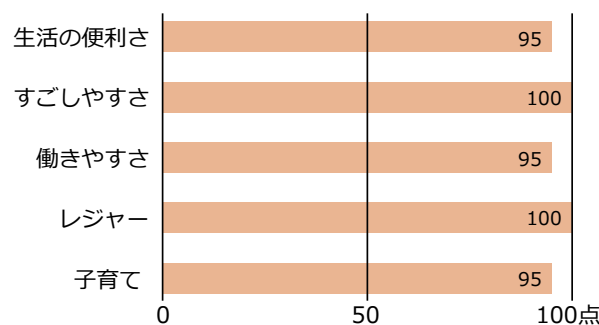


①近隣小学校での芸術鑑賞教室の様子
②稽古場の様子
③大学生がキャンパス内に作ったイグルーで家族団楽

スタートアップを考えるのに良いところ

もちろん、合う、合わないもあるかとは思いますが、青森市は、何かを始めようとする人に温かくて、みんな喜んでくれる印象があります。周りの人の支援もあるし、始めようとする人に対して、賛同して盛り上げてくれます。そうやって承認してくれるということは、心強い何よりの応援になります。特に、何かを立ち上げる・じっくり育てる、次のステップを考える場所として、青森市はすごくいいところだなと勝手に思っています。

青森暮らしに点数をつけるとしたら？



地域のものをおいしい形にして広めることが恩返し
地元の皆さんには大変お世話になりました



移住者インタビュー

清水 輝之さん (1ターン)

30代 ベーグルカフェオーナー
埼玉県出身 2014年12月移住

Bagel & Cafe pommier (ポムミエル)
青森市浪岡大字大釈迦前田 61-13

温かい地域性が感じられる

移住のきっかけは、青森市に移住する前は、埼玉県で自動車部品メーカーの研究・試験員として働いていたんですが、青森市に転勤した友人を年2～3回訪ねているうちに、旅の中で触れた青森の自然と食、文化、そして温かい県民性に惹かれるようになったんです。市内の居酒屋で出会った主人にとっても良くしてもらい、この人のぶっきらぼうだけれど温かい人柄に惹かれて、青森へ移住したいと強く思うようになりました。その後、移住相談窓口やハローワークを活用し、青森への就職活動を開始したんですが、県外からの応募のせいか、「言葉がわかる?」「実家暮らしでないと難しいのでは?」など面接のたびに聞かれ、なかなか結果につながらずいました。そんな中、偶然「青森市地域おこし協力隊員」の募集を見つけ、「自分の気持ちに素直に行動して、青森市を盛り上げたい!」とすぐに応募しました。

想いが通じて、青森市地域おこし協力隊員に着任することができ、青森市浪岡地区に移住後、2年4か月の間、地域の情報発信、農産物や水産加工物等

のPR、地産大豆を使った味噌作り、リンゴ・カシスや大豆の栽培、漁船でのワカメの収穫、雪上綱引きと、青森市の魅力を経験・発信する宝探しのような毎日をご過ごしました。着任してしばらくは、地域の皆さんに挨拶をしても身構えられることがありましたが、顔を合わせる機会が増えるにつれて、逆に皆さんから気さくに話しかけられるようになりました。農家の方から採れたての野菜をいただくようにもなり、旅をしていたときに感じていた青森の温かい地域性を感じることができました。



塩バターベーグル



自家焙煎したコーヒー

アクティビティを楽しめる街

青森市に住んでみた感想ですが、必要な物や店は、ほぼ全て揃っています。交通のアクセスは良く、都内からも飛行機や新幹線など、高速交通網が発達していてとても便利です。移住前は冬の青森に不安がありましたが、実際に暮らしてみて、外の寒さは厳しいですが、住宅の暖房機能が高いため家の中は問題ありません。移住した当初はアパートで暮らしていたため、雪かきはほとんどしなくてすみ、雪道の運転は安全運転を心掛けていれば、さほど恐怖を感じることはなかったんですが、路面が雪で覆われるため、右折レーンや停止線など、道路状況の把握はウィンターシーズンの前にするのが望ましいです。農水産物が豊かでおいしいことや、住宅地と大自然がとても近く、アクティビティを楽しみやすいことには大満足です。あと、ねぶた祭りなど地域の祭りに参加できることや、パーベキュー、花火などを自宅の庭や駐車場で気兼ねなく楽しめることも 100 点です。給与が低い、職が少ないので「働きやすさ」は 50 点ですかね。



30 種類以上のベーグルやシュークリームが陳列する店内の様子

地産品を使い恩返し

地域おこし協力隊員の任期終了後は、現在の場所で、ベーグルカフェを経営しています。この店は、以前、別の場所で妻が経営していて、一度は閉めたのですが、結婚を機に、景色が良く自然に囲まれたこの場所に、新居を兼ねて再オープンしたんです。妻の実家が農家なので、農家で作っているものを大切にしながら、商品を作っていきたいなっていうのと、地域の良いものをみんなに知ってもらいたくて、バサラコーン（青森市浪岡地区特産のトウモロコシ）を使ったりしています。

私の実家がコーヒー豆専門店を営んでいることがあって、コーヒーは自家焙煎しているものを提供しています。地域おこし協力隊員として働いていたとき、地元の皆さんには大変お世話になりました。地域のものをおいしい形にして広めることが恩返しだと思っています。



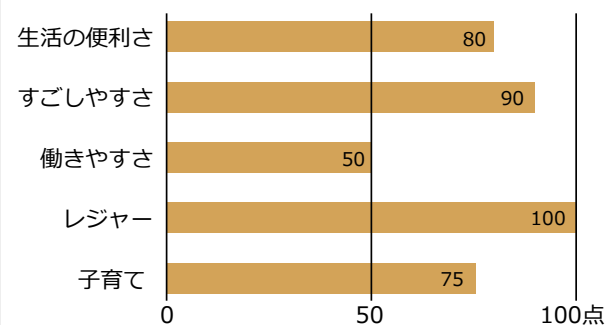
自然がすぐ近くに感じられるベーグルカフェ

無理をせず移住を考えてほしい

私は、人の温かさ、郷土芸能、農水産物、自然など全てをまとめて青森市が好きで暮らしているんですが、青森市にしかない魅力は、トータルバランスの高さだと考えています。まずは、無理をしない形で移住を考えてほしくて、例えば、最初はお試してマンスリーのアパート等に入って、この青森を感じてもらうことがいいかなと思っています。新しい場所に来て、地域の人たちと話をすると、合わない人もきつという思うんですよ。地域の人は、事情を知っているかもしれないんですが、移住したほうは知らないの、話し掛けていいのかわからない。私は、最初はまず挨拶から始めたんですが、そういうちょっとしたところが重要で、ゆっくり馴染んでいく気持ちがあるほうがいいかなという気がします。あと、車があると生活が便利になりますし、雪が不安な方はアパートやマンションがおすすめです。



青森暮らしに点数をつけるとしたら？



移住者インタビュー

藤田 えみさん (1ターン)

20代 イルカのトレーナー

千葉県出身 2018年4月移住

青森県は魚介類の種類が豊富
野生のカマイルカも近くで見られる



青森県宮浅虫水族館 青森市浅虫字馬場山 1-25

魅力をより多くの人に 発信していきたい

移住のきっかけは、保育園に通っている頃からイルカが好きで、実家から車で2時間のところにある、鴨川シーワールド(千葉県鴨川市)によく連れてってもらいました。水族館でイルカのトレーナーを見て、私もイルカに携わる仕事がしたい、トレーナーを目指そうって、小学校3年生ぐらいから思っていました。その思いもあって、大学は海洋生物資源科学科に進学して、海や海の生物のことを学びました。4年生のとき、イルカの研究をしている先生の研究室に入り、イルカのことを深く学びました。そのときに、卒業後は水族館に就職して、日本の海の豊かさを後世に伝えていければいいなと思っていました。

そんな中、大学の授業で、海の水産資源について学ぶ機会があり、青森県では暖流系と寒流系の両方の魚が獲れて、全国的に見ても魚介類の種類が豊富な県だと知り、魅力を感じました。中でも一番魅力

を感じたのは、野生のカマイルカを多い時で500頭近く見ることができるフィールドが身近にあるところです。私が魅力を感じたことを、より多くの人に発信していくことができる水族館で働きたいと思い、青森市に移住してきました。



イルカとコミュニケーションをとるのも大事な仕事

四季折々に美しい姿を楽しめる

青森市に住んでみた感想ですが、出身地の千葉県との一番の違いは冬の積雪量です。朝起きたらすぐ積もっていて、毎日、何時間かおきに雪かきするって感じですね。でも意外に乗り越えられました（笑）。ちなみに、道路は除雪が行き届いていて、維持管理がしっかりされていると思いました。夏は台風が少なく、気温や湿度が低く、快適に過ごすことができます。また、産地直送のスーパーが自宅の近くにあり、常に新鮮な旬の野菜や魚介類が安く手に入るところが嬉しいです、青森市は優しい人がいっぱいいます。夏は、青森を代表するねぶた祭もすごく楽しいですし、冬はスキー場が近いので、気軽にスノーボードに行くことができます。有名な温泉地も多いので、いいことばかりです。青森市の魅力は四季がはっきりしていて、四季折々に美しい姿を楽しめるところ。自然と街が調和する魅力度満点のまちです。



①自然と街が調和する魅力満点のまち
②プライベートで自然を満喫

イルカショーがうまかったときにやりがい

今は浅虫水族館のイルカグループに所属しています。イルカグループのスタッフは私を含めて8人いるのですが、東京、岩手、岐阜など県外出身者が多いです。1日の流れとしては、まずは掃除をして、魚をさばいて1日分の餌を用意し、次にイルカ健康チェックをして、その後、イルカショーの準備をし、ショーに出演しています。ショーは1日に4～5回あるんですが、水族館は365日営業しているので、8人でシフトを組んで回しています。仕事で楽しくやりがいがあるところは、例えば、ジャンプを教えていたイルカがショーでうまかったときですね。

イルカと接する上で心掛けていることは、まず、イルカの気持ちになること。あと、うまくいかなかった

ときは、まず、自分のせいにはしています。イルカのせいにしないで、私のこういう動きがダメだったんだとか、こういうところがイルカに伝わりづらかったんだなというのをまず考えて、行動するようにしています。



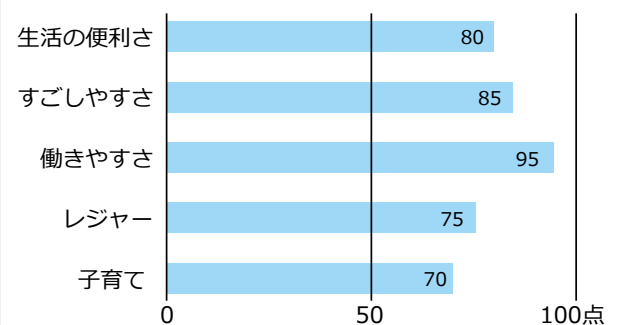
ショーの様子。イルカの気持ちになって伝えることが大事

冬の青森を一度体験するのがお勧め

浅虫水族館にはジュニアクラブというのがありまして、その活動の一つに、子どもたちと野生のカマイルカを見に行くイベントがあるんですが、カマイルカや水族館を通して、子どもたちをはじめ、たくさんの人に青森県の水産資源の豊かさを伝えていけたらなと思っています。

移住を考えている人へのアドバイスとすれば、移住前に一度、冬の青森を体験しておいたほうがいいと思います。あと、冬に使用する防寒具は、青森の地元のお店で購入することをお勧めします。

青森暮らしに点数をつけるとしたら？



平井 義隆さん（1ターン）

40代 農家

岩手県出身 2001年4月移住

今は自分が人を受け入れる立場
自然や気候を肌で感じてもらいたい

中村農園 青森市荒川寒水沢 156-1

恩師との出会い

青森市に来るきっかけは大学進学でした。実家の岩手県宮古市には雪があまり降らないんですが、スキーがたくくて、青森市の大学を選びました。大学ではスキー部に所属していたのですが、3年生の時に、八甲田で山岳ガイドをやっていた中村さんという方と出会い、その出会いが大学卒業後の青森市への定住を決めるきっかけになりました。

中村さんは山岳ガイドをしながら、標高 750 メートルの八甲田のふもとで農業を営んでいたのですが、今まで出会ったことのないタイプの人でびっくりしました。私の地元で、漁師さんなどワイルドな人は見てきたのですが、こっちのガイドさんには、それを超えるような凄さがあり、一緒にいて楽しくて、私もその人たちになれるのかなと思いつつも、山岳ガイドに同行したり、農作業を手伝ったりするようになりました。

その中で、雪で一面真っ白になった後、春に芽吹き始める姿など季節ごとに鮮やかに姿を変える山の景色を見ていたら、また来年もここで、こういう景

色が見たいと思うようになってきたんです。

もともと農業は、職業の選択肢にはなかったんですが、中村さんとの出会いがきっかけで、ここで農業を仕事にしたいと思うようになり、中村さんの農園に就職しました。

中村さんは、私に農業を教えてくれた恩師ですが、一緒に野菜づくりを続けて 10 年ほど経った頃、突然お亡くなりになりました。農園は中村さんのお父さんの代から、少しずつ開拓されてきて、今の広さになっているんですけど、私がそれを使わせてもらっているという思いもあって「中村農園」という名前を残しています。



中村農園の風景

夏は農業、冬はスキーガイド

春から秋は農業に従事し、冬は八甲田でスキーガイドをしています。毎日、市街地の自宅から標高 750 m の農園に車で通っています。季節を感じるができるドライブのような感覚で、通勤を楽しんでいます。育てているのは、大根、ニンジン、トウモロコシ、白菜、ホウレン草、キャベツ、赤カブですが、冷涼な気候を活かして、冬場が旬の大根などを 8 月から 10 月に収穫できるように栽培しています。日照時間が短いとか、風が強いとか、いろいろありますが、基本的に、ここで元気に育てば、すごくおいしい野菜ができます。野菜は自分の身を守ろうと甘くなるんです。ここでは、ニンジンやトウモロコシ等の収穫体験をやっていて、自分で採ったトウモロコシを焼いたり、茹でたりして食べることができるので、参加した子どもたちは喜んでますね。

冬は 1 日 1 組限定で、八甲田のスキーガイドをしています。常に天気の良いわけではないので、私たちはどんな天気でも絶対に楽しめる場所を案内しています。



ニンジンを洗浄機にかける様子

八甲田に興味がある若者と…

独立して仕事をするようになって 3 年になるんですけど、ここがもっと賑やかになればなと思っています。活気があった頃は、お客様がここまで野菜を買いに来ていたみたいですけど、最近は、「どこ？」っていう感じで、この場所を知らない方が多いんです。この沖揚平地区にツアー参加者の方々に来てもらって、自然や気候を肌で感じ、楽しんでもらえたら嬉しいです。そのために、ここに拠点をしっかり作って行って、若い人をどんどん受け入れて、一緒に仕事したいなと思っています。以前は、中村さんが私を受け入れてくれたんですけども、今は逆に私が受け入れる立場になったんだなって感じています。



スキーガイドの様子。どんな天気でも絶対に楽しめる場所を案内

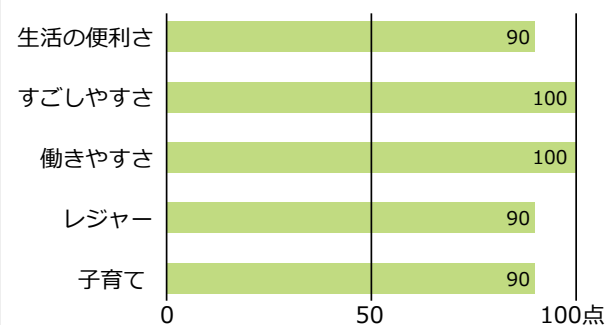
自分の好きなことを思いっきり

私の移住のきっかけは、スキーがしくて、青森の大学に進学して、そのときに中村さんと出会ったことだったんですが、これから移住を考えている人には、どうせやるなら、思いっきり自分の好きなことをやってほしいですね。



農園から見える青空をバックに

青森暮らしに点数をつけるとしたら？



自分の時間を確保できるように満足
今後は、登山やキャンプも始めたい



移住者インタビュー

木村 寧男さん (Uターン)

40代 システムエンジニア

青森市出身 2006年6月移住

首都圏暮らしと違う環境

移住のきっかけは、高校卒業まで青森市で暮らしていたんですが、車が好きで、自動車関連の仕事に就きたいと思い、上京しました。その後、IT関連の仕事に転職し、システム構築や、新しいプロジェクトの提案・立ち上げなど行っていました。当時は、朝5時半頃に家を出て始発電車に乗り、帰りは最終電車で帰ってくるのが日常で、ときには、職場に泊まることもあり、仕事漬けの多忙な日々を送っていました。「いつかは地元に戻る日が来るだろう」と思いながら十数年間、首都圏暮らしをしてきましたが、通勤時の混雑はすごいですし、ずっと暮らすとなると様々なストレスが溜まってきます。そのようなことがあり、違う環境でIT関連の仕事がしたいと強く思うようになったことや、両親が高齢になったこともあり、Uターン移住を決意しました。

Uターンしても、すぐに安定した収入が得られる

かという不安はありましたので、節約を兼ねて、まずは実家に住むことにしました。仕事探しに苦労することは覚悟していましたが、自分のスキルを必要としてくれる企業に巡りあい、そこからトントンと今の職場に再転職できたのは幸運だったと思います。



趣味の写真撮影画像：青森市の夜の風景

不便だと感じない街

学生時代に不便と感じていた街も、十数年ぶりに帰ってきてみたら結構便利になっていた印象がありました。新しい道路やお店ができていたりして、東京の郊外くらいにはなっています。今は、地元で買えないものでもインターネットで買える時代なのであまり不便は感じないです。首都圏暮らしで感じていたストレスは軽減されましたし、仕事の面では、自分のこれまでの経験を活かして、アドバイスできるようになりました。首都圏では電車通勤でしたが、青森では車通勤ができるようになりましたし、プライベートでは自分の時間を確保できるようになり、とても満足しています。



趣味の写真撮影画像：アスバムをバックにした護衛艦

一年中楽しめる街

青森市は青森県の中心に位置しているため、県内各地の観光地やグルメ巡りが日帰りで行けるんです。私はドライブと写真撮影が趣味で、道の駅を巡りながら、気に入った風景などの写真を撮ったり、ミリタリーが好きなので艦船等の写真を撮ったりもしています。また、青森市は、海と山に囲まれているので、アウトドア、マリンスポーツ、ウィンタースポーツ好きにとっては、一年中楽しめる街なので、もっと余裕ができたなら、登山やキャンプを始めようかと思っています。また、近年、各地で地震や台風等の自然災害が多いですが、青森市は自然災害が少ない印象があります。



趣味の写真撮影

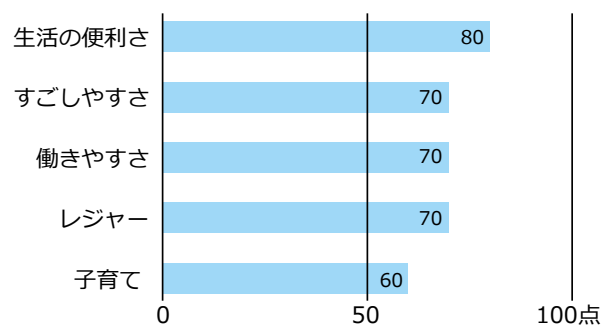
大きなビジネスチャンスになり得る

Uターン前は「とりあえず働き口があれば」としか考えていませんでしたが、Uターン後、いろいろ経験するにつれ、首都圏で培ったスキルが結構役立つことに気づきました。「首都圏では全盛期だが、青森市では黎明期」というサービスや技術がたくさんあり、青森市は自分のスキルを活かすことができる環境だと思います。やり方とアイデア、実行力次第では、大きなビジネスチャンスになると思います。移住を考えている人へのアドバイスとすれば、移住するか悩んでいるということは、来たいんだと思います。1回来てみないとわからない部分はあります。1回来てみて、だめならまた元に戻ることができると思うので、そのくらいの気持ちが必要かもしれません。あとは、冬は自宅でも職場でも除雪しなければならないことは覚悟しましょう。車はほぼ必須だと思うので、移住する前に免許を取得するか、青森市に来てからすぐに取得することをお勧めします。



パイロットメットをかぶりご満悦の木村さん

青森暮らしに点数をつけるとしたら？



移住者インタビュー

ゆうだい

橋本 雄大さん (Uターン)

20代 コーヒースタンド店主

青森市出身 2017年7月移住

一人ひとりとのつながりを大切に
コーヒーを通じてつながるコミュニティ

COFFEEMAN good 青森市古川 1-17-1

コーヒーもヒトも、出逢い

高校卒業まで青森市で暮らしていて、青森市の良さがあまりわからずにいました。今でこそ魅力的な場所が青森市にはたくさんあることを知りましたが、街中に楽しめる場所があまりないイメージでした。当時は社会科の教員を目指していたのと、多民族国家のマレーシアに興味を持ったことがきっかけで、東南アジア諸国に留学できて教員免許も取得可能な東京の大学に進学を決めました。進学後は、カンボジアでの小学校建設活動やバングラデシュでの現地大学生との環境保全活動プロジェクト等、様々なボランティア活動に参画しました。妻の有里とは地域ボランティアの活動で出逢いました。卒業後は東京の学習塾に就職しましたが、予想以上の激務に疲弊してしまいました。たまの休日くらいは外に出かけてリフレッシュしよう…そう思い街を歩いて、たまたま通りかかったカフェの雰囲気惹かれ入ると、見たことのないようなコーヒーの名前や風味の説明が書かれたメニューがあり（完熟した葡萄を想わせる甘みがあると書かれていました。）半信半疑

で注文し飲んでみると、本当に完熟した葡萄のような風味や甘みがあり、その感動体験は現在でもはっきり覚えています。それから情報収集を重ね、転職を決意しました。運よく、大手コーヒーチェーンがスペシャルティコーヒー*専門店の日本1号店を立ち上げるタイミングで採用され、修行を積むことができました。会社の代表として競技会に出場したり、店舗を任せただけようになった頃、帰省する機会があり、青森のコーヒーショップを巡る中、偶然出逢ったのが現在働いているお店です。何度か帰省の際に寄っていたら「想い描いた運営ができず悩んでいる」とマネージャーから聞きました。そのときは「大変だなあ…」と思いつつ、お土産のコーヒー豆を置いて横浜に戻りました。次の日、オーナーの中村が横浜のお店に突然やってきたときは本当に驚きました。「帰ってきて、青森のコーヒーカルチャーを盛り上げませんか？」という熱烈なオファーで、夫婦で移住することを決断しました。

*スペシャルティコーヒー
消費者（コーヒーを飲む人）の手に持つカップの中のコーヒーの液体の風味が素晴らしいおいしさであり、消費者がおいしいと評価して満足するコーヒー。国際審査員の味覚評価で基準以上のもの。

青森市は「喫茶の楽園」

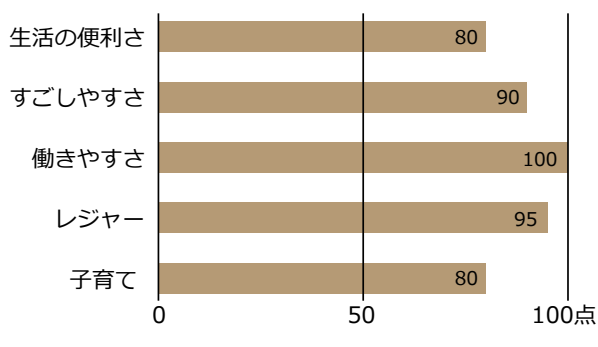
移住後に感じたことは、青森には親切な方が多いことです。「青森は慣れた?」「雪は大丈夫?」と声をかけて気遣ってくれます。お客様同士でも配慮があり、席が埋まってくると他のお客様を気遣って「よかったらここどうぞ」って空けてくださったり。温かくて優しい人が多くて幸せだなんて思います。お店の周辺にはたくさんの喫茶店やコーヒー店があり、国内外から、喫茶巡りのために青森を訪れる方もいらっしゃいます。それぞれのお店のマスターが魅力的で、その日の気分に合わせてお店を決めたり…はしごしているようなお店のメニューを楽しむ方も多いです。お店同士の交流や情報交換も増えてきて、いろいろなお店で趣向を凝らしたオリジナルドリンクやメニューを楽しむようになってきました。青森は食材の宝庫なので、コーヒーだけにとどまらず「飲食」というカテゴリーにおいて圧倒的に楽しめる街だと感じます。私たち夫婦も、休みの日にはお気に入りのお店や気になるお店を巡り、楽しんでいます。

ぜひ、街をくまなく歩いてみてください。



季節限定「津軽味噌キャラメルのカプチーノ」が人気上昇中

青森暮らしに点数をつけるとしたら？



ワクワクするようなコーヒーと安心感のあるコーヒーのバランス

世界中のコーヒー生豆を厳選して自家焙煎しています。花や果実の香りや風味がするフルーティなコーヒーや、香ばしいロースト感を楽しめるコーヒーなど、常時7～10種類ほどをそろえています。心を込めてコーヒーをお淹れして、味わいに感動していただけたときの喜びはひとしおです。また、首都圏で働いていたときと比べ、お客様との距離が近く感じられ、お客様との会話を楽しみながら働いています。コーヒーを通じて緩やかなつながりが生まれる、私たちにとっても大切な居場所ができました。



世界各国から厳選して仕入れたコーヒーのラインナップ

街の人が背中を押してくれる

「青森から世界に通用するコーヒーカルチャーをつくる」ことが未来の目標です。そのために、イベントを企画したり、競技会に挑戦したりしています。青森に帰ったら挑戦できる機会が減るのではないかと考えていましたが、そんなことはありません。街の方々の惜しみない協力や助言のおかげで、出場したコーヒーの競技会で初めて東北1位、全国3位に入賞することができました。これからも夫婦二人三脚、街の方々と協力しながら青森のコーヒーシーンを盛り上げていけたらと思います。



夫婦でお客様をお見送りするのが楽しみのひとつ

移住に関する支援

自然環境に恵まれた青森市への移住をサポートします。

移住の相談窓口

■青森市の相談窓口

「青森に戻って仕事がしたい」「都会よりも地方が好き」「青森に住んでみたい」「子どもをのびのび育てたい」…そんな方々を応援します。

困ったこと、分からないことがあれば、お気軽にご相談ください。

- 問合せ 青森市企画部 企画調整課
〒030-8555 青森市中央 1-22-5
☎017-734-5168

✉ kikakuchousei@city.aomori.aomori.jp
ホームページ
<http://www.city.aomori.aomori.jp/>



■首都圏での相談窓口

首都圏で移住相談や情報提供をご希望のかたは、「青森暮らしサポートセンター」をご利用ください。専任の移住・交流相談員と就職相談員がきめ細かく対応いたします。

- 問合せ 青森暮らしサポートセンター
(略称：あおぐら)
〒100-0006 東京都千代田区有楽町 2-10-1
東京交通会館 8階
「NPO 法人ふるさと回帰支援センター」内
☎03-6273-4820 (直通)
090-6342-6194 (移住・交流相談員)
✉ aomori@furusatokaiki.net
FAX 03-6273-4821
開設時間 10:00 ~ 18:00
※月・祝日、夏季休業期間及び年末年始はお休みします。
※相談会等で不在にする場合もございます。

支援制度

■移住支援金の交付

青森市へ移住し起業したかたへ最大 100 万円の移住支援金を交付します。

- 対象者の要件
 - ①平成31年4月1日以後に本市に転入し、かつ、次に掲げる要件に該当すること。
 - ア. 移住直前の10年間のうち、通算5年以上、東京23区に居住又は東京圏（東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県）のうちの条件不利地域以外の区域に居住し、東京23区に通勤していたこと。
 - イ. 移住直前まで連続して1年以上、東京23区に居住又は通勤していたこと。
 - ②移住支援金の申請の日から5年以上継続して本市に居住する意思を有していること。
 - ③本市に転入した後1年以内に青森県起業支援事業に係る起業支援金の交付決定を受けていること。
- 移住支援金の額
2人以上の世帯の場合：100万円
単身世帯の場合：60万円
- 起業に関する要件
青森県起業支援事業に係る起業支援金の交付決定を受けている必要があります。
起業支援金の額：
補助対象経費の2分に1に相当する額（上限200万円）
- 問合せ 青森市企画部 企画調整課
〒030-8555 青森市中央 1-22-5
☎017-734-5168

多面的な交流サポート

■首都圏ビジネス交流拠点

青森市をはじめとする、東青地域 5 市町村が連携して、東京赤坂に開設したビジネス交流拠点「AoMoLink ~赤坂~（あおもりんく〜あかさか〜）」は、5 市町村の地元の食材・加工品等特産物の販路拡大を目的としたアンテナショップとして、首都圏と地元事業者の商談などビジネスサポート機能のほか、移住や就職、観光などの情報を提供しています。

また、青森にゆかりのある方々や様々な団体の東京拠点として活用いただくなど、多面的な交流をサポートします。



【アクセス】

- 東京メトロ千代田線赤坂駅より徒歩約 1 分
- 東京メトロ銀座線・南北線溜池山王駅より徒歩約 5 分
- 東京メトロ丸ノ内線赤坂見附駅より徒歩約 8 分
- 問合せ 青森市経済部 経済政策課
青森市東京ビジネスセンター
〒107-0052 東京都港区赤坂 3-13-7
サクセス赤坂ビル 1階
☎03-5545-5652
✉ tokyo@city.aomori.aomori.jp

仕事に関する支援

Uターン就職活動や市内での起業・創業を希望される皆さんをサポートします。

仕事を探したい

■Uターン就活サポートデスク

県外の大学・専門学校等の学生や、県外にお住まいで市内企業へ転職などを検討しているかたのUターン就職活動を応援します。

専門の就職相談員が採用情報の紹介やアドバイスなどを行っておりますので、お気軽にご相談ください。

- 開設時間 8:30～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く。)
- 場 所 青森市新町 1-3-7
(青森市経済部 経済政策課内)
- 問合せ ☎ 017-734-5047
✉ u-syukatsu@city.aomori.aomori.jp



■Uターン求人ナビ

青森市へUターン就職・転職したい方と青森市内の企業とのマッチングを支援するポータルサイトです。採用情報のほか、登録企業の概要や特色など、企業の情報や魅力を発信しています。

気になる採用情報を見つけたり、お探しの求人が見当たらない時は、上記「青森市Uターン就活サポートデスク」へお気軽にご相談ください。

- URL <https://aomori-urn.work/>



起業・創業の窓口

■あおもり地域ビジネス交流センター (地元拠点)

起業・創業支援の専門家であるインキュベーション・マネージャーが常駐する窓口である「あおもり地域ビジネス交流センター(地元拠点)」を開設し、起業・創業にチャレンジするかたなどを対象に、起業・創業後のフォローアップも含めた相談を受け付けます。起業・創業に関心をお持ちのかた、具体的に起業・創業をお考えのかた、新しい事業への挑戦をお考えのかたは、ぜひご利用ください。(※相談無料)

- 開設時間 10:00～20:00
(土・日・祝日・年末年始を除く。)
[事前に電話で申込みが必要です]
- 場 所 青森市新町 1-2-18
青森商工会議所会館 1階
AOMORI STARTUP CENTER 内
- 問 合 せ ☎ 017-763-0037
FAX 017-763-0038
✉ info@aomolink.jp



支援制度

■商店街空き店舗対策

商店街の1階の空き店舗を活用して出店する場合、店舗改装費の一部を助成します。

- 問 合 せ 青森市経済部 経済政策課
〒030-0801 青森市新町 1-3-7
☎ 017-734-5227

■中小企業者創業資金支援

(県融資制度協調支援)

青森県融資制度「『選ばれる青森』への挑戦資金」(創業する事業) 利用者のうち、融資額1,000万円以内

かつ融資期間10年以内で融資を受けた場合、信用保証料を全額補助(市70%、県30%)します。

対象者

市内で新たに中小企業者として事業を開始するかた、または事業を開始して5年に満たない中小企業者で、市税に未納の額がないかた

- 問 合 せ 青森市経済部 新ビジネス支援課
〒030-0801 青森市新町 1-3-7
☎ 017-734-2379

子育てに関する支援

共働き夫婦が安心して仕事ができるよう、様々な子育て支援に取り組んでいます。

支援制度

■子ども医療費助成

お子さんが医療機関等を受診した際に、保険診療に係る自己負担分を助成するものです。

- 対象者 0歳～中学校3年生の子ども
- 助成内容 通院・入院にかかる保険診療分の医療費自己負担額
※ただし、入院時の食事療養費、保険者から給付される高額療養費、附加給付金を除く。

●保護者の所得限度額

(下表に定める額以上のかたは非該当となります)

1月～7月に申請するかた

前々年の所得及び前々年の12月31日現在の扶養人数

8月～12月に申請するかた

前年の所得及び前年の12月31日現在の扶養人数

扶養の人数	対象所得限度額
0人	5,320,000円
1人	5,700,000円
2人	6,080,000円
3人	6,460,000円
4人	6,840,000円

扶養人数が5人以上の場合は、扶養人数が一人増すごとに所得額38万円加算した額

○所得から控除できるもの

1. 社会保険料として一律8万円
2. 医療費控除・小規模企業共済掛金控除・雑損控除に該当する額
3. 老人扶養親族1人につき6万円
4. 障害者扶養1人につき27万円
5. 特別障害者扶養1人につき40万円
6. 勤労学生控除27万円
7. 寡婦(夫)控除27万円
8. 寡婦特別控除35万円

※ただし、青森市国民健康保険加入の0歳児に限り所得制限はありません。

- 問合せ 青森市税務部 国保医療年金課
〒030-0801 青森市新町1-3-7
☎017-734-5345



子育て支援

■保育所・認定こども園等

▼入所までの流れ

毎月1日からの入所となります。

▼申込みの前に必要なこと

お子さんと一緒に希望保育所等を見学し、申込書の見学チェック表に確認印を押してもらうことが必要です。(見学の際は、各保育所等に事前連絡してください。)

※市外からの転入予定等の理由で、事前に見学ができない場合には、市担当課へご連絡ください。

▼申込み締切日

第1回締切日…入所を希望する月の前月10日

第2回締切日…入所を希望する月の前月20日

※申込締切日が土・日・祝日及び年末年始の市役所閉庁日にあたる場合は、その前の市役所開庁日が締切日となります。

※4月入所の申込みについては、通常と異なりますので、市ホームページなどにて改めて日程をお知らせします。

※3月入所の申込みの締切は、第1回目のみとなります。

※21日以降に緊急に保育の必要な理由が生じた場合は、市担当課にご相談ください。

▼申込みの際に必要な書類

詳しくは、市担当課までお問い合わせください。

- 問合せ 青森市福祉部 子育て支援課
〒030-0801 青森市新町1-3-7
☎017-734-5330

■あおもり親子はぐくみプラザ

令和2年4月に、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を提供する「あおもり親子はぐくみプラザ」がオープンします。

本プラザには、親子の遊び場や交流の場、子育て相談や情報提供の場として「プレイルーム」を設置します。

また、保健師、看護師、保育士、社会福祉士、助産師、管理栄養士、臨床心理士等の多職種の専門職がチームとなって包括的に支援いたします。

- 問合せ 青森市保健部 健康づくり推進課
〒030-0962 青森市佃2-19-13
☎017-743-6111

子育てに関する支援

子育て支援

■病児一時保育

病気のお子さんや、病気が治りかけのお子さんを保育所などで一時的にお預かりします。

- 対象児 0歳～小学校3年生
- 料金 1日当たり 1,200円（食事代込）
- 利用時間 8:00～18:00（日・祝日、年末年始を除く）

施設名	住所	電話番号
青森市病児一時保育所	古川2丁目3-13ビル2階	017-777-0987
蛸貝保育園	青柳1丁目8-28	017-752-0958
こども園青い鳥	油川岡田20-2	017-788-0377
こども園瑞穂	浪岡女鹿沢稲本85	0172-62-7350

■一時預かり

保育所等に入所していない児童への子育て支援です。保護者がケガや病気のために急に子どもの世話ができなくなった場合や、一時的な就労などで子どもの保育が必要な場合などに保育を行います。

- 実施施設 保育所（園）・認定こども園
- 料金 各施設により異なります。
※詳しくは、各実施施設にお問い合わせください。
- 問合せ 青森市福祉部 子育て支援課
〒030-0801 青森市新町1-3-7
☎017-734-5330

■青森市ファミリー・サポート・センター

本センターは、地域の子育て支援を行うことを目的に、子育ての援助を受けたいかた（利用会員）と子育ての援助を行いたいかた（サポート会員）のネットワークを作り、保育所（園）の送迎やその後の預かり、病児・病後児の預かりなど、会員同士がいつでも子育てを助け合う会員組織です。

- 内容
 - ・保育所等の開始前・終了後の預かり、保育所等までの送迎
 - ・買い物等外出の際の預かり
 - ・急な残業、出張等の際の宿泊を伴う預かり
 - ・病児・病後児の預かり など
- 対象
ご利用いただくためには、事前に会員登録（無料）が必要です。
- 利用料金
 - ①昼間（7:00～19:00）1時間 550円～700円
 - ②早朝・深夜（上記以外の時間）1時間 650円～800円
 - ③宿泊（1泊当たり） 6,500円～8,000円
- 問合せ 青森市ファミリー・サポート・センター
〒030-0822 青森市中央3-20-30
県民福祉プラザ5階
一般社団法人青森県保育連合会事務所内
☎0120-916-800
- 問合せ時間 月～金（祝日・年末年始を除く。）
8:30～17:00

■青森市つどいの広場「さんぼぼ」

子育て親子の交流、集いの場、子育て情報を提供する場として、つどいの広場「さんぼぼ」を設置しています。「さんぼぼ」では、子育てアドバイザーや保育士による子育て相談の実施や、子育てに関する催し物、講習会を開催しています。

- 利用対象 主に乳幼児（0～3歳）の子どもとその親
- 開設時間 【平日】9:00～18:00
【土・日曜日、祝日】9:00～17:00
※年末年始はお休みです。
- 利用料金 無料
- 問合せ 青森市つどいの広場「さんぼぼ」
〒030-0801 青森市新町1-3-7
青森市役所駅前庁舎2階
☎017-721-4005



■地域子育て支援センター

青森市内に7か所ある地域子育て支援センターでは、電話や来所等による育児相談や保健師・栄養士・医師等による育児講座、子育てサークルの育児支援や活動支援など様々な育児支援を行っています。

※活動内容は、各地域子育て支援センターで異なっておりますので、詳しい内容については、各施設にお問い合わせください。

施設名	住所	電話番号
子ども支援センター	中央3丁目16-1	017-721-2180
和幸保育園	長島2丁目1-12	017-776-1924
佃保育園	南佃1丁目6-9	017-744-4192
あさひ保育園	岡造道2丁目4-40	017-744-5134
ねむのき保育園	篠田1丁目21-8	017-781-2130
ひまわり保育園	里見1丁目5-25	017-783-5105
しらゆり保育園	浪岡福田1丁目9-6	0172-62-7660

■放課後児童会

保護者が就労等により日中家庭にいない小学校に就学している児童を対象に、家庭の代わりとなる放課後の居場所を提供するため、放課後児童会を開設しています。

- 開設時間 【平日】13:00～18:30
【学校休業日】8:00～18:30
【土曜日】8:00～18:00
※日曜日・祝日・年末年始はお休みです。
- 負担金 月額3,200円
- 問合せ 青森市福祉部 子育て支援課
〒030-0801 青森市新町1-3-7
☎017-734-5348

農業に関する支援

国や県、青森市で実施している様々な支援制度を活用しながら、農業を始めませんか。

就農相談等の窓口

■あおもり就農サポートセンター

農業移住希望者や新規就農者に対し、就農に関する相談や栽培技術指導など農業経営に関するアドバイスをしております。お気軽にご相談ください。

- 開設時間 8:30 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く。)
- 場 所 青森市石江字江渡 59-13
- 問 合 せ ☎ 017-752-6445
FAX 017-752-6455
✉ shunou-support@jaaomori.or.jp



新たに農業に就きたいかたへ

■やりたい農業のイメージは？

農業に関する情報を積極的に収集し、やりたい農業のイメージを描きます。

イメージがつかめたら、各種研修制度を活用しながら実際に体験して農業の基礎知識を習得しましょう。

■めざす農業経営ビジョンの明確化

どんな作物を作り、どのような農業経営を行うのか、農地や機械、施設を、いつ、どのように準備するのかも含めて検討しましょう。

自分の目指す農業経営に必要な技術やノウハウを身につけましょう。

■資金の確保

農業を始めるためには、農地のほか、施設や機械、当面の生活費など、様々な資金が必要です。

認定新規就農者*となることによって、様々な支援制度を活用できます。

*認定新規就農者とは、将来の農業経営を定めた「青年等就農計画」を作成し、市が認定したかたをいいます。

支援制度

■青森市農業振興センター研修制度

新規就農者、農業の基礎を学ぼうとするかたに対して、野菜・花きの栽培講習・実技研修を実施します。(実費負担あり)

※青森市農業振興センターは、農業次世代人材投資資金(準備型)の研修機関に認定されています。



■農業次世代人材投資資金(準備型)

県が認める研修機関(営農大学校や青森市農業振興センターなど)で研修を受ける就農希望者に対し、最長2年間、年間最大150万円を給付する国の事業です。

就農予定時の年齢が50歳未満であること、農業経営者となる強い意欲を有していることなど、様々な要件があります。

■農業次世代人材投資資金(経営開始型)

新規就農したかたに、経営が安定するまでの間の最長5年間、年間最大150万円を交付する国の事業で、市が窓口となっています。

独立・自営就農時の年齢が原則50歳未満であること、本人が経営の主体となっていること、認定新規就農者であることなど、様々な要件があります。

■新規就農者定着化支援事業

青森市内に住所を有する認定新規就農者を対象に、農地・機械の賃借料や機械・施設、資機材の導入経費など青年等就農計画の達成に向けた取組に要する経費の一部を助成します。

- 問 合 せ 青森市農林水産部 農業政策課
〒038-1392
青森市浪岡大字浪岡字稲村 101-1
☎ 0172-62-1156

転入の手続き

■青森市への転入手続き

●受付窓口・受付時間

受付窓口	受付時間
青森市役所 駅前庁舎 行政情報センター市民課 浪岡庁舎 市民課	月曜日～金曜日 (年末年始・祝日を除く) 8:30～18:00
浜館支所、奥内支所、原別支所、 後潟支所、野内支所	月曜日～金曜日 (年末年始・祝日を除く) 8:30～17:00
中央情報コーナー (本庁舎内) 柳川情報コーナー (柳川庁舎内) 西部情報コーナー (西部市民センター内) 油川情報コーナー (油川市民センター内) 荒川情報コーナー (荒川市民センター内) 横内情報コーナー (横内市民センター内) 東岳情報コーナー (東岳コミュニティセンター内) 高田情報コーナー (高田教育福祉センター内)	

- 届出期限 転入した日から14日以内
- 届出するかた 本人または同一世帯のかた
(代理人が届け出る場合は、本人からの委任状が必要)
- 届出に必要なもの
 - ・前住所地の市区町村で発行した転出証明書
 - ・マイナンバーの通知カードまたはマイナンバーカード (個人番号カード)
 - ・住民基本台帳カード (お持ちのかたのみ)
 - ・運転免許証、パスポート、マイナンバーカード等の本人確認ができるもの

■小・中学校への転入手続き

●転入までの流れ

- ①現在通学している学校に転校する旨を連絡し、転校に必要な書類 (在学証明書・教科用図書給与証明書) を受け取ってください。
- ②現在お住いの市町村に転出届を出してください。
- ③青森市役所市民課または支所等に転入届を出してください。その際、窓口で小・中学校に通学している児童生徒がいる旨を申し出てください。窓口にて転入学通知書を交付します。
※指定された学校以外の学校へ通学を希望する場合は、その場で転入学通知書を交付できません。その際は、市教育委員会学務課の窓口までお越しください。

- ④指定された学校へ直接下記書類をお持ちになり、転校手続きをしてください。

- ・在学証明書
- ・教科用図書給与証明書
- ・転入学通知書

●その他

児童生徒の通学する学校については、市教育委員会が児童生徒の住所により指定していますが、この指定された学校を変更したい場合は、変更の申請を行うことができます。詳しくは、お問い合わせください。

- 問合せ 青森市教育委員会事務局 学務課
〒030-0801 青森市新町 1-3-7
☎ 017-718-1414

空き家・空き地バンク

■青森市空き家・空き地バンク

「青森市空き家・空き地バンク」は、市内にある空き家・空き地の売却、賃貸等を希望する所有者等から申込みを受けた物件情報を、国が運営している「全国版空き家・空き地バンク」のホームページ等で公開し、これを利用したいかたとの取引につなげる制度です。

仲介は、バンクに協力する宅地建物取引業者が行いますので、安心して交渉や契約を行うことができます。

登録時点で、宅地建物取引業者との仲介の契約を必要としません。

- ※空き家・空き地所有者と空き家・空き地利用希望者のマッチングを行うものであり、青森市が売買・賃貸借の仲介を行うものではありません。

●登録物件情報の公開ページ

<https://aomori-c02201.akiya-at-home.jp/>

●利用者の要件

下の全てに該当するかたは、利用者登録することができます。

- ・青森市暴力団排除条例に規定する暴力団、暴力団員、これらと密接な関係又は社会的に非難される関係を有する者でない。
- ・空き家・空き地の転売、転賃を目的としない。

●注意事項

- ・契約成立時には、宅地建物取引業法に定める仲介手数料が発生します。
- ・バンクに登録した物件を市が管理や補修を行うことはありません。
- ・青森市は交渉・契約に関する仲介行為は行いません。交渉・契約に関する紛争等についても関与しません。

●その他

利用者登録の流れ等、ご不明な点は市担当課へお問い合わせください。

- 問合せ 青森市都市整備部 住宅まちづくり課
〒030-0801 青森市新町 1-3-7
☎ 017-734-5576





発行

青森市

〒030-8555 青森市中央一丁目22番5号

☎017-734-5168 📠017-734-5129